

令和5年度(2023年度) 事業計画

①理事会等の開催状況

理事会(回)	理事出席率(回)	評議員会(回)	施設調整会議(回)	評議員主任(回)
2020年	10	0	1	11
2021年	10	0	3	10
2022年(仮決)	10	2	2	11

②その他の会議の開催状況

第三者委員会(回)	第1期中期経営計画策定委員会(回)	第1期中期経営計画策定部調整会議(回)	施設長・次長調整会議(回)
2020年	2	4	17
2021年	2	0	0
2022年(仮決)	2	0	0

③理事長職務執行状況報告

報告回数	役員研修会(回)	職員研修会(回)
2020年	2	0
2021年	2	0
2022年(仮決)	2	3

④研修会の開催状況

金額(千円)	
2020年	295,400
2021年	378,900
2022年(仮決)	

⑤社会福祉充実残額

前年度実績及び評価面(2022年度最終算込)

法人全体	サード活動増減差額	当期活動増減差額	
2020年	726,145,075	454,170,490	83,538,324
2021年	739,545,985	459,114,539	92,973,495
2022年(仮決)	736,332,477	485,064,365	66,914,972

⑦経営状況(本部拠点区分)

本部拠点区分	サード活動増減差額	当期活動増減差額
サード活動取組	0	-2,837,645
2020年	1,059,000	-7,702,029
2021年	1,010,000	-7,791,503
2022年(仮決)	112,000	-34,513,000

①理事会等の開催状況について

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、必要な理事会等の開催を行った。開催状況については例年と大きな差異はないが、特に今年度はダイバーシティセンター棟の建設事業のスケジュール調整やアソシアニの譲渡問題等重要な案件を急遽開催して協議することが多かった。

②その他の会議の開催状況について

事務的に各施設間で協議を要する案件については、必要に際し施設長・次長会議を開催した。第1期中期経営計画は既に策定が完了し、実施を行っていることから次期第2期計画に向けて調整会議を次回開催した。

③理事長職務執行状況報告について

決算期、上半期終了時の年間2回実施した。新型コロナウイルス感染症の最新情報と法人全体の経営状況をより分かりやすく報告を行った。

④研修会の開催状況について

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮しながら、法人全体に共通する案件を題材として、年3回(4月・11月・RS2月)開催を行った。

⑤社会福祉充実残額について

令和4年度は第2期社会福祉充実計画(令和4～8年度)の初年度にあたり、年度当初378,900千円を執行計画に基づき、実施を行った。特に、令和4年度はダイバーシティセンター棟建設事業が補助採択を受け、工期延長により令和5年度に約207,000千円を社会福祉充実計画として執行を行う。

⑥経営状況(法人全体)について

法人全体としては、当期活動増減差額を7%以上確保できている。(9.0%)

⑦経営状況(本部拠点区分)について

特別な業務の変更以外大きな変動はない。

(2020年度=経営計画策定業務 2021年度=ネットワーク構築LAN工事 2022年度=明規員直し業務)

⑧その他(特筆すべき事項)

・第2期中期経営計画の策定準備
本年度、第1期中期経営計画を十分に効果検証及び評価を行い、次期計画を令和5年度に策定するための準備を行った。

・電子システム導入検討

第2期社会福祉充実計画(令和5年度)で導入を予定している電子システムについて、様々な角度から検討を行い、必要な経費や事務負担の効率化など今年度中に最終の結論付けが必要である。

・ホームページのリニューアル及び社会保険等の一元化

令和5年度よりハイテクオリティサイトに一新し、内容や機能を充実させ新卒が情報発信に努める。令和5年度より事務負担の軽減から法人組織たかし会会として一元化して加入する。

1: 目指す姿 どのような法人を目指すのか。 **地域とともに 福祉を創る たかしま会**

令和5年度は「第1期中期経営計画」の最終年にあたり、総仕上げとして新たなサービス事業の展開や安定した法人経営に全力で取り組む年度である。

①法人本部事務局体制の充実
 : 法人本部の専属化された事務局体制を立ち上がり、更なる機能充実を図る (令和4年4月1日から新事務局体制で実施)
 ・ 令和4年度までに取り組んだ事務の整理 (別期の見直し整理・社会保障業務の一元化・職員給与等取扱改正等)
 ・ 令和5年度に取り組むべき事務課題 (電子システム(給与・人事・就業)の導入・定年延長制度の検討・第2期中期経営計画の策定)

②職員体制の再構築
 : 法人全体の適正な人員配置を検討する
 ・ 法人全体での人員配置の再検証
 ・ 限られた人員を効率的に配置する中長期的な人事戦略

目標 R5年3月 完了
 目標 R6年3月 完了

③財政基盤の強化
 : 継続して経営の安定化を図る(サービスの質の向上、地域福祉推進に寄与、働きやすい職場作り等達成のため)
 ・ 各事業所(2023年経営計画)を参照
 ・ 第2期社会福祉充実計画(R4~R8年度)の適正な執行

法人全体で、当期活動増減差額を7%以上確保する (法人全体当期活動増減差額/法人全体サービス活動収益)

目標 当期活動増減差額7%以上
 目標 R9年3月 事業進捗

④経営理念の浸透(継続)
 : 全役職員が理念・倫理綱領のもと行動する
 ・ 各事業所で朝礼時「たかしま会理念」を唱和する
 ・ 理事会等の議案資料に「たかしま会理念」を掲載する

目標 R3年4月 から
 目標 R3年6月 から

⑤効率的・効果的な事務規律の確立
 : 法人全体としての事務処理の統一とコスト意識の醸成を図る
 ・ 【事務処理の手引き】、【契約事務の手引き】の作成
 ・ 経営計画のフォローアップ事務(資金計画の見直し)

目標 R6年3月 完了
 目標 R5年12月 完了

⑥トータルな人材マネジメントの整備
 (職員募集の法人一元化)
 ・ 採用計画の作成と募集戦略の検討(ホームページ・リアルによる効果的な活用他)
 ・ (再掲)法人全体での人員配置の再検証
 ・ (再掲)限られた人員を効率的に配置する中長期的な人事戦略
 (人材育成)
 ・ 職員研修計画の策定
 (人材発掘)
 ・ 出前講座の実施(法人PR)

デイトサービスセンター 療の事業運営開始 厨房業務の専門性に特化した組織の立上げ
 コロナ退を見据えたリソース分散型配置 職員のキャリア形成のためのジョブローテーション
 研修体系の整理と資格取得計画等の作成
 独自の就職フェアや大学生、専門学生、高校生へのアプローチ

目標 R5年9月 完了
 目標 R5年3月 完了
 目標 R6年3月 完了
 目標 R4年12月 完了
 目標 R5年12月 完了

⑦情報の収集体制の強化
 : 外部要因の収集
 ・ 経営計画のフォローアップ

目標 通年

⑧サービスの質の向上
 ・ 各事業所に、サービスの質の向上を推進

サービスの質の向上の取りまとめ

目標 通年

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症対策の徹底 ・ 法人全体の事故件数の取りまとめと評価 	<table border="1"> <tr><td>通年</td></tr> <tr><td>通年</td></tr> </table>	通年	通年					
通年								
通年								
<p>⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な方策や連携強化の徹底 	<table border="1"> <tr><td>通年</td></tr> </table>	通年						
通年								
<p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会貢献事業「行こカー」の評価と充実 ・ 地域福祉ニーズ調査 	<p>事業成果の評価と充実を図る(ボランティア活動等の連携強化) 地域課題を整理し、社会福祉法人として取り組むべき方策を検討</p> <table border="1"> <tr><td>通年</td></tr> <tr><td>R6年3月</td></tr> </table>	通年	R6年3月					
通年								
R6年3月								
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の安全と健康の確保 ・ 職員の処遇の改善 ・ 有給休暇取得の促進 ・ 時間外労働の削減 ・ 良好な人間環境を維持する組織風土の醸成 ・ 定年延長制度の検討 	<p>ハラスメント防止対策職員研修会 職員人材育成・処遇改善事業の継続実施(社会福祉充実計画事業) 有給取得状況調査と評価(取得率) 実施状況の把握と評価 職員懇話会への補助</p> <p>全職員を対象とした永年勤続表彰の実施</p> <table border="1"> <tr><td>目標</td></tr> <tr><td>1回</td></tr> <tr><td>通年</td></tr> <tr><td>通年</td></tr> <tr><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td></tr> <tr><td>R6年3月</td></tr> </table> <p>完了</p>	目標	1回	通年	通年	通年	目標	R6年3月
目標								
1回								
通年								
通年								
通年								
目標								
R6年3月								
<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業所に、ブランド化を推進 	<p>ブランド化の取りまとめ</p> <table border="1"> <tr><td>通年</td></tr> </table>	通年						
通年								
<p>⑭広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページリニューアルに伴う情報発信の強化 ・ SNSを活用したイメージアップ 	<p>目標 R5年3月 完了</p>							
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業所に、先進的な技術やITの取り組みを推進 	<table border="1"> <tr><td>通年</td></tr> </table>	通年						
通年								
<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>								

令和5年度(2023年度) 事業計画

事業所 藤波園

①養護入居者数及び利用実績

入居者数(人/日平均)	措置費実績		計
	事業費	事務費	
2020年	36,530,601	88,837,697	125,368,298
2021年	35,151,454	81,712,981	116,864,435
2022年(仮定)	52.0	32,668,495	74,281,472
			106,949,907

単位:円

②契約入所利用者および利用実績

利用者(人/月平均)	契約入所	計
2020年	0	0
2021年	0	0
2022年(仮定)	4	5,239,679

単位:円

③介護保険利用者および利用実績

利用者(人/月平均)	介護給付費	利用者負担金	計	平均介護度
2020年	58,478,894	6,605,025	65,083,919	3.4
2021年	65,977,767	7,331,023	73,308,790	3.2
2022年(仮定)	62,466,326	6,940,823	69,407,149	2.9

単位:円

前年度実績及び評価
(2022年度最終見込)

④経営状況

藤波園拠点区分事業総額				単位:円
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	198,154,247	123,859,440	11,578,338	10,083,168
2021年	193,730,207	124,052,154	9,956,323	7,425,677
2022年(仮定)	173,979,180	124,689,255	△ 9,794,704	△ 12,323,350

①養護入居者数及び利用実績

・4月以降、死亡4件、他施設への措置替え1件で、新たな措置は天津市が7・9・2月に3件、高島市が1月に1件であった。2月現在の入居者は61人となった。

・各市町が措置を抑える方針であることから今後措置での入居者数の増は見込めない。

②契約入所利用者および利用実績

・措置での入居者数の増は見込めないことから、契約入所のPRのため高島市内、天津市内の地域包括、草津市役所等を訪問した。

・契約入居者数は、高島市内から4人、天津市内から1人の利用があった。現在は4人が利用している。

③介護保険利用者および利用実績

・養護の入所者が見込めないため、特定施設の利用者確保に努めたが、28人の目標に対し見込みは、24.9人の見込みとなり、目標数値を下回った。

・介護保険利用者の目標は28人であったが、措置入居者の減少に伴い利用者も減少となったため、契約入居者に介護保険の利用を促し24.9人となった。

④経営状況について

・入居者数減少のため措置費、介護給付金、利用者負担金は大幅に減少した。

・契約入所の利用があったため利用料は増額となった。

⑤生活支援

・行事は、新型コロナウイルス感染症拡大のため昨年度同様、規模を縮小して実施した。また、利用者の外出ができず、地元商店の訪問販売や平和堂のホームページを利用して要望に応えた。

・4回目の新型コロナウイルスワクチンを7月に接種し、感染防止に努めた。

⑥環境整備

・新型コロナウイルス感染症拡大のため、面会を制限しており、リモート面会・ガラス越し面会で対応していたが、今年1月より場所、時間を決めて直接の面会を実施した。このことにより入居者の心理的な負担を和らげることができた。

⑦施設整備

・平成23年度に購入した大型乾燥機が、老朽化により買替が必要になったため、新規に購入した。
・施設内の水路改修工事を実施した。

⑧その他(特筆すべき事項)

・新型コロナウイルス感染症への配慮をしながら、行事等を実施した。
・昨年の年末から新型コロナウイルス感染症に入居者41人、職員8人合計49人が感染し、1月16日に終息した。

1: 目指す姿 どのような事業所を目指すのか。

尊厳のある生活の場と経営の安定を目指して

① 法人事務局体制の充実

: 法人本部の機能充実に向けて本部と連携して取り組む

法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

② 職員体制の再構築

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

③ 財政基盤の強化(特定施設の健全経営)

: 入居者の確保および介護保険利用者の確保による収益の向上に努める。

- ・ 新規入居者の確保
- ・ 契約入所の促進、確保
- ・ 介護認定の早期申請と入居時の病状等の確認および介護方針の協議

年平均入居者	目標	56.0	人
年平均入居者	目標	4.0	人
年平均介護保険利用者	目標	28.0	人

④ 経営理念の浸透

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

- ・ 毎月の職員会議で理念の唱和

⑤ 効果的・効果的な事務規律の確立

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

⑥ トータルな人事マネジメントの整備

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

職員研修の実施
職員の資格取得に向けての支援

目標

⑦ 情報の収集体制の強化

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

関係機関との連携強化

⑧ サービスの質の向上

: 常に入居者の立場にたった良質で適切なサービスが継続的に提供できるよう、職員の質の向上を目指す。

〈人材育成〉

- : 職員のスキルアップ(適正な介護技術の習得)
 - ・ 職員研修
- : 職員のスキルアップ(虐待防止に向けた取組み)
 - ・ 職員研修
- : 職員の資格取得に向けての支援
 - ・ 支援予定人数 介護福祉士・介護支援専門員 各1人
 - ・ 介護職員初任者研修 1人

目標 人
目標 人
目標 人

⑨ 安全で衛生的かつ快適な環境の整備

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

事業継続計画(BCP)の策定
防災マニュアル・感染症対策マニュアル等の周知、見直し

⑩ 老人福祉施設と障がい福祉施設の併設の強味を活かす(併設の強味を活かす)

: 藤の樹工房との連携強化

農作業等で交流を図る。

当年度活動方針と事業の進め方

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑪地域における公益的な取り組み（共生社会を見据えた取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ：利益追求のための定員確保を目指すのではなく、緊急避難的に養護老人ホームを必要とする方のための受け皿として事業運営を行う。 ：入居施設を探している方への契約入所を促進する。
	<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ：法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。
	<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ：養護老人ホームの意義および必要性を県内市町に対し啓蒙する。 施設の無い自治体での措置が極端に少ないことから、県内の養護老人ホームに働きかけ、共同で施設の無い自治体に周知を図る。
	<p>⑭広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ：法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。 機関紙の充実を図る。
	<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ：法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。 ：介護保険ソフトで入居者の状態を管理する。

令和5年度(2023年度) 事業計画

①契約者数

平均契約者数(人)	在籍職員数(人)
2020年	2020年
2021年	2021年
2022年(見込)	2022年(見込)

年度末時点(2022年度は1月末時点)

②介護給付費

	給付費(円)
2020年	41,230,379
2021年	38,628,514
2022年(見込)	37,500,000

③利用実績

	所要日数(日)	延利用者数(人)
2020年	366	7,099
2021年	365	6,535
2022年(見込)	365	5,570

④利用実績内訳

	通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス
2020年	3,136	262	3,896
2021年	2,893	297	3,345
2022年(見込)	2,490	362	2,718

④経営状況

	事業総額(円)		
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額
2020年	49,174,080	42,538,139	△7,674,443
2021年	46,005,031	38,114,225	△6,047,373
2022年(見込)	44,450,000	38,510,000	△7,600,000

①契約者数について

- ・6件の新規契約もあったが5件の施設入所・居宅変更により契約者数が伸び悩んだ。
- ・地区にイベントにて利用案内をしたが、契約に結びつかなかった。
- ・他の居宅支援事業所1件、あいりん地域包括支援センターからの紹介が7件であったが、すべてがサービスに結び付かなかった。

②③利用実績について

- ・介護給付費も前年と比べ下回っている。
- ・宿泊者数こそ増えたものの、入院長期化等により収入が減少した。
- ・8月、12月の第7波、第8波の職員、利用者の数からコロナ感染から通所サービスを休止したことから通いサービス数の減少となった。

④経営状況について

- ・2021度は利用契約数減少のため、人件費を削減し、健全化を図った。利用契約数は維持したものの、利用者の介護度の軽度化および入院により介護給付費の減少が著しい。
- ・他の居宅支援事業所および地域包括支援センターの相談ケースもあったが、老健入所までの宿泊利用などであり、直接サービスには繋がらなかった。

⑤生活支援

- ・新型コロナウイルス感染症の発生にともない、消毒や感染防止対策を実施した。
- ・ドライブなど密にならない屋外行事などは順次開始し実施した。
- ・消毒、マスクの着用、利用時前の検温等を徹底し、施設での感染対策に努めた。

⑥環境整備

- ・新型コロナウイルスへの各種対策は継続して行った(アクリル板設置・検温・マスクの徹底・消毒)

⑦施設整備

- ・除雪車(トラクター)も定期的な運転・整備し、除雪対策も行った。
- ・使用の有無にかかわらず、施設備品の点検を行った。

⑧その他(特筆すべき事項)

- ・市ヶ崎区の清掃活動に参加した。(7月、10月の2回)

1: 目指す姿 どのような事業所を目指すのか。

利用してよかったと思える地域の拠点事業所になろう

① 法人事務局体制の充実

: 法人本部の方針に準じ、業務連携を図る。

② 職員体制の再構築

: 法人本部の方針に準じ、職員の適正配置に努める。

③ 財政基盤の強化

: 人員基準とサービス活動収益のバランスを考え、新規利用者の獲得に努める。

- ・ 年間平均契約者数
- ・ 通所サービスと訪問介護うまく活用しつつ利用者確保に努める。(月々の利用者数)
- ・ 近隣地域の利用者への啓蒙、声掛け(パンフレット配布)。

目標	20人
目標	18人

④ 経営理念の浸透

: 職員会議時にたかしま会理念を唱和する。

目標	月1回
----	-----

⑤ 効率的・効果的な事務起立の確立

: 法人本部の方針に準じ、事務作業の効率化を図る。

⑥ トータルな人材マネジメントの整備

: 職員研修の実施(所内研修会の開催)

認知症理解、高齢者虐待、感染症、リスクマネジメント、人権(法定研修を含め) YouTubeなどのコンテンツも活用する。

目標	全職員	人
----	-----	---

: 職員の資格取得に向けての支援(介護支援専門員更新研修、認知症実践者研修、計画作成者研修)

- ・ 支援予定人数

目標	1人
----	----

⑦ 情報の収集体制の強化

: 多職種連携を強化

市内の小規模多機能型居宅介護事業所との情報交換会、勉強会を定期的に参加する。

各種協議会 介護支援専門員連絡協議会湖西ブロックとの情報交換会を行う。

目標	1回/年
目標	4回/年

⑧ サービスの質の向上

: 利用者への支援

- ・ 居宅サービス計画書および小規模多機能型居宅介護サービス計画書の作成(定期見直し)
- ・ 虐待防止への取り組み(高島市、各種研修、チェックリストを活用)
- ・ 施設行事の実施
- ・ 機能維持訓練等の実施
- ・ 体験利用の受け入れ

感染対策は取りつつも、ボランティアの交流も含め、利用者が楽しめる内容を工夫する。
体操など運動メニューを取り入れ、ADLの維持・向上を図る。
体験利用を提案し、施設を知ってもらう。

目標	1~2回/年
目標	2回/年
	随時
	毎日
	随時

: 業務改善等

- ・ 運営推進会議の開催。
- ・ 各種研修会の開催および外部研修の参加
- ・ 第三者委員会等への情報提供

運営推進会議による改善提案に対する意見交換を行う。
所内研修会および法人研修会の企画・参加、外部研修に参加する。
苦情案件はもちろん業務遂行上の課題を提出しサービスの向上に努める。

目標	6回/年
	随時
目標	2回/年

<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <p>： 防災マニュアル・防疫マニュアルの見直し</p> <p>： 火災訓練の実施</p>	<p>BCPに向けた計画の作成、防災マニュアルを見直し、職員や利用者へ周知徹底を図る。</p> <p>火災訓練がマンネリ化しないよう工夫しながら実施する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>2回/年</td> <td>適時</td> </tr> </table>	目標	2回/年	適時						
目標	2回/年	適時									
<p>⑩老人福祉施設と障がい支援施設の併設の強みを生かす</p> <p>： 利用相談対応</p> <p>： ペンプレットの配置</p>	<p>法人本部と連携し、必要に応じて施設担当者につなぐ。</p> <p>法人内事業所にペンプレットを設置する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>広報紙</td> <td>3回/年</td> <td>随時</td> </tr> <tr> <td>ホームページ</td> <td></td> <td>随時</td> </tr> </table>	広報紙	3回/年	随時	ホームページ		随時			
広報紙	3回/年	随時									
ホームページ		随時									
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>： 浜分見守隊および市ヶ崎区の集いに参加・協力依頼。</p> <p>： 地区の清掃活動参加</p> <p>： 地域美化活動</p>	<p>開催時に職員が参加する。</p> <p>地区の清掃活動に職員が出役する。</p> <p>4月～10月の期間で毎月美化活動を実施する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>開催時</td> <td>回/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>2回/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>7回/年</td> <td></td> </tr> </table>	開催時	回/年		目標	2回/年		目標	7回/年	
開催時	回/年										
目標	2回/年										
目標	7回/年										
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>： 法人本部の方針に準じ、快適な職場環境を整える。</p>	<p>たかしま会のサービス利用の高齢、障がい者相談窓口としてペンプレットを設置する。</p> <p>行事や日常の献立に活用できる野菜作りを利用者と共に行う。</p>	<table border="1"> <tr> <td>開催時</td> <td>回/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>随時</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>随時</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	開催時	回/年		随時			随時		
開催時	回/年										
随時											
随時											
<p>⑬法人のブランディング</p> <p>： 相談窓口の設置</p> <p>： 自家製野菜作りと活用</p>	<p>法人本部と連携しHPや広報誌の充実を図る。</p> <p>病院、地域包括支援センターへの配布および市ヶ崎、浜分などに配布する。</p>	<table border="1"> <tr> <td>広報誌</td> <td>3回/年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホームページ</td> <td></td> <td>随時</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>随時</td> </tr> </table>	広報誌	3回/年		ホームページ		随時			随時
広報誌	3回/年										
ホームページ		随時									
		随時									
<p>⑭先進的な技術やITの取り組み</p> <p>： 研修会、会議等への参加</p>	<p>新型コロナウイルス対策のため、担当者会議のIT化を検討する。</p>	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>随時</td> </tr> </table>			随時						
		随時									
<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>											

①契約者数及び利用実績

●契約者数

施設入所支援	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2020年	46人	3人	3人	46人	男性27人 女性19人
2021年	46人	1人	1人	46人	男性28人 女性18人
2022年(見込)	46人	1人	1人	46人	男性28人 女性18人

短期入所

	今年度未登録者数	今年度未実利用者数
2020年	66人	21人
2021年	68人	18人
2022年(見込)	67人	16人

生活介護

	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2020年	50人	2人	3人	56人	入所者46人 通所者10人
2021年	50人	1人	4人	59人	入所者46人 通所者13人
2022年(見込)	50人	3人	1人	57人	入所者46人 通所者11人

●障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
2020年	0人	0人	0人	3人	12人	31人	46人	5.61
2021年	0人	0人	0人	3人	10人	33人	46人	5.65
2022年(見込)	0人	0人	0人	2人	11人	33人	46人	5.67

●利用実績

前年度実績及び評価(2022年度最終見込)

【施設入所支援】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	1,363	1,407	1,367	1,389	1,390	1,363	1,426	1,380	1,418	1,418	1,288	1,426	16,835人
平均利用者数	45.4	45.4	45.6	44.8	44.8	45.4	46.0	46.0	45.7	45.7	46.0	46.0	46.6人/日
2021年	延べ利用者数	1,343	1,365	1,350	1,426	1,380	1,422	1,380	1,393	1,397	1,288	1,426	16,581人
平均利用者数	44.8	44.0	45.0	46.0	45.8	46.0	45.9	46.0	44.9	45.1	46.0	46.0	46.0人/日
2022年(見込)	延べ利用者数	1,380	1,410	1,336	1,409	1,385	1,380	1,380	1,424	1,424	1,288	1,426	16,678人
平均利用者数	46.0	47.0	44.5	47.0	45.0	44.5	46.0	44.5	45.9	45.9	46.0	46.0	46.0人/日

【生活介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
延べ利用者数	1,169	1,145	1,174	1,198	1,173	1,139	1,243	1,170	1,215	1,215	1,060	1,219	14,120人
平均利用者数	53.1	48.8	53.4	52.1	51.0	51.8	54.0	53.2	52.8	52.8	53.0	53.0	52.5人/日
2021年	延べ利用者数	1,173	1,201	1,206	1,242	1,224	1,255	1,201	1,273	1,278	1,082	1,236	14,581人
平均利用者数	53.3	52.2	54.8	54.0	53.2	55.0	54.6	54.6	55.3	55.6	54.1	53.7	54.2人/日
開所日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
延べ利用者数	1,216	1,216	1,191	1,223	1,229	1,178	1,230	1,178	1,207	1,207	1,050	1,207	14,382人
2022年(見込)	平均利用者数	55.3	52.9	54.1	53.2	53.5	53.5	53.5	52.5	52.5	52.5	52.5	53.3人/日

【短期入所】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	延べ利用者数	151	140	129	139	115	115	153	132	134	134	134	
2020年	平均利用者数	5.0	4.5	4.3	4.5	3.7	3.8	4.4	4.3	4.3	4.8	4.3	4.4人/日
2021年	延べ利用者数	126	137	147	125	85	106	106	135	133	95	87	1,386人
2022年(仮定)	平均利用者数	4.2	4.4	4.9	4.0	2.7	3.5	3.5	4.4	4.3	3.4	2.8	4.0人/日
	延べ利用者数	149	159	167	177	151	123	91	100	139	139	139	1,673人
	平均利用者数	5.0	5.1	5.6	5.7	4.9	4.1	2.9	4.5	4.5	5.0	4.5	4.0人/日

【日中一時】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	延べ利用者数	110	108	127	128	107	121	104	92	97	110	110	
2020年	平均利用者数	3.7	3.5	4.2	4.1	3.5	4.0	3.4	3.1	3.5	3.9	3.5	3.6人/日
2021年	延べ利用者数	90	109	108	108	80	53	110	96	91	93	30	1,073人
2022年(仮定)	平均利用者数	3.0	3.5	3.6	3.5	2.6	1.8	3.5	3.1	2.9	3.3	1.0	3.1人/日
	延べ利用者数	85	85	93	86	83	85	86	101	88	88	88	1,056人
	平均利用者数	2.8	2.7	3.1	2.8	2.7	2.8	3.4	2.8	2.8	3.1	2.8	3.1人/日

前年度実績及び
評価値(2022
年度最終見
込)

②経営状況

施設入所支援事業総額 (円)	施設入所支援事業総額 (円)		生活介護支援事業総額 (円)	
	サービス活動収益	サービス活動増減差額	サービス活動収益	サービス活動増減差額
2020年	120,033,373	21,314,258	191,897,584	40,951,506
2021年	125,745,485	23,371,809	204,222,400	48,444,517
2022年(仮定)	122,471,846	21,870,833	215,556,300	61,516,380
		当期活動増減差額		当期活動増減差額
		20,407,183		39,008,038
		17,524,776		36,221,461
		11,023,275		38,670,471

短期入所支援事業総額 (円)	短期入所支援事業総額 (円)		日中一時支援事業総額 (円)	
	サービス活動収益	サービス活動増減差額	サービス活動収益	サービス活動増減差額
2020年	13,269,020	4,942,837	4,103,450	737,529
2021年	13,114,228	4,521,154	4,433,850	1,116,508
2022年(仮定)	14,993,340	6,407,922	4,876,410	1,385,584
		当期活動増減差額		当期活動増減差額
		4,942,837		737,529
		4,521,154		1,116,766
		6,407,922		1,385,784

* 2022年度の数値は、決算見込み数値です。

①契約者数・利用実績について

【施設入所支援】7月に老衰による死亡で利用者1人の退所があったが、その補充は、長期に渡る短期入所1人を9月に受入れ、定員46人を充足した。

入院加療を受けた人は4人で、延べ入院日数は128日であった。

【生活介護】施設入所46人と在宅からの通所者8人と長期に渡る短期入所者3人の計57人を受入れた。

【短期入所】新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中ではあるが、在宅障がい者等の介護家族のレスパイト的な機能や利用者本人の生活リズムを整えるうえで必要なサービスと見え、感染予防策を講じながら受入を行った。その結果、12月末現在で延べ1,256人の利用があった。新規契約者は3人であった。

【日中一時支援】短期入所事業と同様に受け入れを行い、12月末現在で延べ792人の利用があった。

②経営状況について

【施設入所支援】介護給付費収入の2.6%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受けしたが、128日間の入院があったことや約1か月半定員を充足できなかったこと等により、サービス活動収益計は、3,273,639円の減収となる見込みとなった。

【生活介護】利用人数が安定し稼働率が上がったことと11%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受けたことにより、サービス活動収益計は、11,333,900円の増収となる見込みとなった。

【短期入所】延べ利用者数が増えたことと11%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受けたことにより、サービス活動収益計は、1,879,712円の増収となる見込みとなった。

【日中一時支援】延べ利用者数が増えたことでサービス活動収益計は、306,376円の増収となる見込みとなった。

③支援状況

・12月に利用者・職員共に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種4回目を終えた。

・6月に精神科の受診先を嶺南こころの病院から今津駅前メンタルクリニックに変更し、往診で診察を受けることで病院内に向く負担が軽減された。

・7月より訪問看護ステーションひよりと契約を締結し、理学療法士の派遣を受けた。内容は、利用者個別のリハビリや職員向けに介護技術を上げる研修等を行うことで、職員の介護負担の軽減に繋がった。

・利用者が加齢に伴い咀嚼機能の低下や誤嚥、歯周病等の疾病予防と改善を目的に、今年度も歯科医や歯科衛生士から職員が口腔ケアに係る技術的指導を受け、利用者の口腔ケアの強化に努めた。また、歯科受診についても医療機関と連携のもと積極的な取り組みを行い、治療が進んだ。

・事故報告件数は1件あり、転倒による骨折であった。現在は完治した。

④環境整備

・トイレセンサーの立ち上げに向けてペンフレットを作成し、新規職員採用と利用者確保に向けて取り組んだ。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保護者の協力を得ながら、県・市・区・面会・外出等を自粛してきたが、9月に国から示された「withコロナの新たな段階」への移行指針が示されたことをもって、状況に応じて制限を緩和し、年末頃からは県外を再開した。

・行事については、ふじみ祭りは規模を縮小したり、YouTube配信をする等感染拡大の予防策を講じて実施した。それ以外は、外出を避ける案内で行う行事に替えて実施した。

・職員対象に新型コロナウイルス感染症の唾液によるPCR検査を6月・7月・1月に実施した。結果は何れも全員が陰性であった。

・道路交通法の改正に伴い10月よりアルコールチェックが義務化され、公用車の運転前後に酒気帯びの有無を確認し、安全意識を高めた。

⑤施設整備

・6月に令和4年度民間心身障害者社会福祉施設整備費補助金の交付内示を受け、9月6日に指名競争入札を行い、高島鉛建株式会社とトイレセンサー新築工事請負契約を締結しその後着工した。完成は、5月末になる見込みである。

・既存の大型洗濯機が経年劣化により買え替えが必要となり、6月に大型洗濯機1台を新規購入した。

・厨房の移動式シンクが経年劣化により使用できなくなり、新たに2台とフライヤーを購入した。

・河本文教福祉振興会より冷蔵庫1台の寄贈を受けた。

・今年度水路需上げ補修工事を計画しており、12月に業者選定をし工事に着手し、現在工事は完了した。

⑥その他(特筆すべき事項)

・藤美寮所属の職員が50人を超えることから、産業医と衛生管理者を選任し、月1回衛生管理委員会を開催し、職員の健康管理や職場環境の安全維持管理に努めた。

・短期入所事業と日中一時支援事業については、高島市内に同サービスを提供する事業所が増えたことから、入所施設としての役割等を發揮し、質の高いサービスを提供することで利用者の確保に努めた。

・トイレセンサーの立ち上げに向けて、生活介護通所者の確保と職員の確保が近々の課題である。

・課題に向けて、5つ(地域貢献事業、新規事業検討、魅力的な職場づくり、災害・感染症対策、サービスの質の向上)のプロジェクトチームを立ち上げ、課題解決に向けて取り組んだ。

・保育実習の学生8人受け入れを行い、学校との連携を図った。また、障害者支援施設の概要と利用者支援の魅力を発信した。

前年度実績及び
評価(2022年度最
終見込)

1: 目指す姿

入所施設の強みを活かし、利用者や地域で暮らす方一人ひとりの豊かな生活の実現に向けて事業を展開していく

① 法人本部事務局体制の充実

- ・法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む。
- ・法人本部との連携強化

目標 通年

② 職員体制の再構築

- ・法人全体の適正な人員配置を検討する。
- ・法人本部との連携強化
- ・適切な人員配置の為に採用

目標 通年
3 人

③ 財政基盤の強化(経営数値)

- ・新規利用者の確保による障害福祉サービス等事業収入の増収を目指す
- ・生活介護通所者の新規利用者の確保(養護学校や相談事業と連携をし新規利用者の確保と地域へのアウトリーチ)
- ・短期入所や日中一時の新規利用者確保(養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り起しをし、契約人数を増やしていく)
- ・市内同サービス提供事業所があることから、入所機能を持つ当事業所の強みをアピールしていく。
- ・短期入所の長期利用者の確保(欠員後の補充を考え、男女各2人ずつ確保する。)

目標 3 人
目標 各3 人
目標 通年
目標 4 人(銀行の人数を含む)

④ 経営理念の明確化

- ・全職員が理念・基本方針のもと行動する。
- ・法人本部との連携強化
- ・職員朝礼等で理念の唱和する

目標 通年
目標 通年

⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立

- ・事業所内の事務業務の見直しと担当割の検討・実施

目標 通年

⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実

【人材育成】

・職員のスキルアップ

- ・事例研究(ケーススタディ)を通して「ケア・支援の具体的な実践方法」を各チーム別に学び実践する。
- ・寮内で取り組みを発表する機会を設ける。
- ・発達障害支援者養成研修に職員を派遣する。
- ・滋賀県発達支援センターからコンサルテーションの導入により支援力の向上に努める。
- ・サポートケース・カリッジの導入により、オンライン研修を実施する。

・権利擁護意識の強化

- ・外部研修の受講
- ・内部研修の実施
- ・雇用の芽チエックリスト等虐待防止に対する取り組みの見直しと更なる意識の向上

・職員の資格取得に向けての支援

- ・資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)
- ・リーダーの養成。
- ・専門知識の指導者の育成(専門的な取り組みをしている事業所に派遣し技術の習得)

全職員 1 回/年以上
目標 3 回/年以上
目標 1 回/月
目標 通年
目標 1 人

当年度活動方針と事業の進め方

⑦情報収集の強化

- ・対象利用者の発掘と潜在的なニーズと課題の把握。
- ・他機関との連携強化(高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等)

⑧サービスの質の向上

：意思決定支援の強化

- ・利用者の個別化支援の強化(状態像の把握とニーズに基づき、専門性を活かした支援)
- ・利用者個々の身体状況に応じた日中活動の提供(日常生活動作の維持・向上)

：権利擁護の取り組み強化

- ・虐待防止委員会の強化

- ・利用者のオンラインバナー、個人情報保護を保護し、信頼性の高いサービスの提供

：生きがい・やりがいの意識の向上(利用者向け)

- ・活動時間の確保と内容の充実

- ・自主製品(利用者の作品の商品化)のオンライン化に向けた検討

- ・利用者の社会参加の促進(コロナ禍の状況を踏まえ、実施内容の検討と実施)

- ・マキノ町内の清掃とエコフラスター区間清掃管理等

：医療との連携

- ・嘱託医、協力病院等との連携強化

：地域移行に向けた取り組み

- ・高島市障がい福祉計画(第6期)令和5年度末、施設入所者の6%以上が地域に移行目標設定有

- ・地域移行に向けた経験と調査

⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備

- ・利用者の障害特性に応じた生活環境の整備(6月までに下案を作り、10月に再検討)

- ・感染症予防委員会の開催(新型コロナウイルスやノロウイルス、インフルエンザ等の予防)

- ・衛生管理委員会の開催(職場の安全や従業員の心身の健康維持・増進、職場環境の改善等)

- ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化(BCP(事業継続)・虐待防止・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出と対策の検討)

- ・消防訓練・不審者対応訓練等の実施

- ・地域との協力体制の強化(年1回防災訓練等の実施)

- ・既存のマニュアルの見直しと職員や利用者へ周知の徹底

- ・災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し(福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施)

- ・大型エアコンのメンテナンス

⑩老人福祉施設と障がい福祉施設の併設の強味を活かす

- ・高齢知的障がい者の生活の場の検討

- ・感染時における交流棟(コロナ棟)の活用

- ・高齢知的障がい者の現状と課題を行政に伝え改善に向けての働きかけ

- ・膝波園の利用者に陶芸教室の誘い

当年度活動方針と事業の進め方

目標	通年
目標	通年

目標	通年
目標	通年

会議目標	6	回/年
目標	通年	

目標	通年
目標	通年
目標	通年

目標	通年
----	----

※令和5年度末目標	3	名
目標	R5年度中	に実施

目標	令和5年12月	完了
目標	4	回/年
目標	1	回/月
目標	通年	
目標	3	回/年
目標	R5年10月	完了
目標	通年	
目標	R5年10月	完了
目標	R5年5月	完了

目標	通年
目標	通年
目標	通年
目標	通年

当年度活動方針と事業の進め方	①地域における公益的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業「ふじみ祭祭り」の再開 ・陶芸教室の開催(地域の方やグループホームの利用者、その他法人事業所の利用者を対象) ・地域貢献事業「行こカー」事業への協力(月2回運転職員出役) ・地域生活宿泊体験支援事業の場の提供 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>R5年6月</td> <td rowspan="3">予定</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	目標	R5年6月	予定	目標	通年	目標	通年	目標	通年	
	目標	R5年6月	予定									
	目標	通年										
	目標	通年										
	目標	通年										
②魅力ある職場環境の構築 <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部との連携強化 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	目標	通年									
目標	通年											
③法人のブランディング <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い事業所 ・自主製品(利用者の作品等)のブランディング 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	目標	通年		目標	通年						
目標	通年											
目標	通年											
④広報活動の充実(情報発信の強化) <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、ホームページの更新と事業所の取り組み等の発信 ・社会人ボランティア募集と育成 ・中学生向けのボランティア活動の啓発 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	目標	通年		目標	通年		目標	通年			
目標	通年											
目標	通年											
目標	通年											
⑤先進的な技術やITの取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、県省の自粛や面会制限のあることから、施設での生活を伝える手段を工夫する ・コロナ禍の中、外部研修受講に向けて、WEB環境の整備 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	目標	通年		目標	通年						
目標	通年											
目標	通年											

令和5年度(2023年度) 事業計画

事業所 藤美相談支援事業所

①契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	
2020年	100
2021年	100
2022年(税込)	100

実績	
計画数(件)	モニタリング数
2020年	45
2021年	60
2022年(税込)	51
	322

①契約者数・利用実績について

・令和3年度末の契約者数は100人であったが、令和4年7月に藤美寮の入居者1人、12月に在宅者1人、令和5年1月にグループホーム羽ばたきの入居者1人死亡による契約解除となった。また、藤美寮の入居者1人と在宅者1名、短期入所者1人と契約をし、現在の契約者数は100人と前年度と変わりはない。

②計画相談支援給付費について

・適切に加算取得に向けた支援を行い報酬に結び付け、安定した経営に努めた。
 ・令和4年度に主任相談支援専門員養成研修に職員を派遣し、取得を目指した。今後は、更に相談支援専門員のスキルを上げ、主任相談支援専門員配置加算を得ることで、経営の安定を図っていく。

③経営状況について

・利用者の生活実態、ニーズや置かれている状況をアセスメントし、モニタリングに繋げその頻度を上げたことで給付費収入は増収となった。
 ・モニタリング時等においては、サービス提供場面を確認したり、利用者の状況確認や支援内容の調整等きめ細やかに支援する目的でサービス担当者会議等を開催し、関係機関との連携を強化した。また、その支援を報酬の加算として算定した。

④支援等について

・発達障がいの特徴に理解がないままに成長し、二次障害として精神疾患を発症したり、家族・事業所の理解がないために支援が滞っているケースが目立つ中、サービス担当者会議や個別ケース会議を通じて関係機関と連携を図ってきた。
 ・相談支援連絡会を通じて基幹相談支援センターの機能の充実を希望した。
 ・独自の近隣に家族等の身内がおらず、調子を崩した場合の支援が難しい。また、頼れる人がいないため、度々相談事業所に連絡が入る等、報酬に直結しないケースが多かった。
 ・地域生活支援拠点等整備において地域生活の継続を目指し、障がい者や家族の緊急事態に対応を図るため、藤美寮と連携をしながら緊急時等相談支援の機能を充実させ実施した。

・度重なるトラブルや家族環境の変化により成年後見制度の導入に至ったケースが2人いた。成年後見制度の導入にあたり、会議・書類の作成の手伝いに時間を要した。

⑤環境整備

・デイサービスセンター隣の建物完成後は、事務所をその建物の2階に設け環境を整える。
 ・事務的な業務を担当する相談員と専門の相談員に業務を分担したことで、スムーズに業務遂行が出来るようになった。

⑥その他(特筆すべき事項)

・サービス等利用計画については、高島圏域内でもセルフプランの方が2人いる中、相談支援体制の充実が課題となっている。藤美相談支援事業所においてもそのニーズに応えられるよう、令和5年度に向けて体制整備を検討していく。
 ・相談員1人が主任相談支援専門員養成研修を受講した。

前年度実績及び評価
(2022年度最終算定)

②障害福祉サービス等事業収入

計画相談支援給付費収入 (円)	
2020年	5,957,814
2021年	6,506,891
2022年(税込)	7,429,384

職員数 (人)	
2020年	相談員(専従)10、(兼務)01、所長(兼務)10
2021年	相談員(専従)10、(兼務)01、所長(兼務)10
2022年(税込)	相談員(専従)10、(兼務)01、所長(兼務)10

③経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	5,957,814	5,492,094	187,597	191,616
2021年	6,506,891	6,237,741	45,704	△1,505,276
2022年(税込)	7,429,384	7,119,891	77,645	2,890,986

1: 目指す姿
他の事業所との連携のもと、本人が望む生活が継続できるように、計画や調整を行う

① 法人事務局体制の充実

- ・法人全体の機能充実に向けに具体的に取組む
- ・法人本部の方針に準じ連携して実施

目標 通年 から

② 職員体制の再構築

- ・法人全体の適正な人員配置の検討
- ・法人本部の方針に準じ連携して実施
- ・専従と兼務との人員配置と業務の検証

目標 通年
 目標 通年

③ 財政基盤の強化

- ・経営の安定を図る。
- ・本人に合ったサービスの見直しにより、計画作成やモニタリングの頻度を上げ報酬に繋げていく。
- ・相談事業所間の連携加算の算定に向けて、行政や他相談事業所と調整を図っていく。
- ・セルフプランの方等、新規利用契約者の確保
- ・単独経営できるよう行政に訴える。

目標 通年
 目標 12 月
 目標 4 人/年
 目標 通年

④ 経営理念の浸透

- ・全職員が理念・基本方針のもと行動する。
- ・法人本部との連携強化
- ・職員朝礼等で理念を唱和する。

目標 通年
 目標 通年

⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立

- ・業務の整理と適切な役割分担

目標 通年

⑥ トータルな人材マネジメントの整備

〈人材育成〉

- ・事業の継続に必要な体制づくり(相談支援専門員研修)
- ・スキルアップのため各種研修への参加

目標 1 人/年
 目標 1 人/年

⑦ 情報の収集体制の強化

- ・多職種連携の強化
- ・他事業所の相談員や行政等の関係機関と連携の強化

目標 通年
 目標 通年

⑧ サービスの質の向上

- ・本人に合ったプラン作成をする。
- ・本人に必要なサービスを見極めプランに落とし。
- ・関係機関との連携の強化

目標 通年
 目標 通年
 目標 通年

⑨ 安全で衛生的かつ快適な環境の整備

- ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底
- ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化(BOP(事業継続)虐待防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討)
- ・避難行動要支援者に対する災害時の相談業務の強化

目標 通年
 目標 通年
 目標 通年

当年度活動方針と
 事業の進め方

⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす ⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み) ・職美寮と連携のもと取り組む。 ⑫魅力ある職場環境の構築 ・法人本部との連携強化 ⑬法人のブランド化 ・法人内事業所との連携の充実 ・たかし志会で採用されたロゴマークを名刺や郵便物用の封筒に印刷し、法人・事業所をアピールする ⑭広報活動の充実 ・ホームページを活用し情報の発信をする。 ⑮先進的な技術やITの取り組み ・業務の効率を上げるためZOOMを活用する。	⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす ・法人の各事業所との連携	目標 <input type="text"/> 通年
	⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み) ・職美寮と連携のもと取り組む。	目標 <input type="text"/> 通年
	⑫魅力ある職場環境の構築 ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text"/> 通年
	⑬法人のブランド化 ・法人内事業所との連携の充実 ・たかし志会で採用されたロゴマークを名刺や郵便物用の封筒に印刷し、法人・事業所をアピールする	目標 <input type="text"/> 通年 目標 <input type="text"/> 通年
	⑭広報活動の充実 ・ホームページを活用し情報の発信をする。	目標 <input type="text"/> 1 回/月
⑮先進的な技術やITの取り組み ・業務の効率を上げるためZOOMを活用する。	目標 <input type="text"/> 通年	

当年度活動方針と
 事業の進め方

令和5年度(2023年度) 事業計画

事業所 グループホーム

①契約書数及び利用実績

契約者数 (人)	利用実績		職員数 (人)
	所要日数(日)	既利用者数(人)	
2020年	23	366	20
2021年	24	365	21
2022年(見込)	23	365	22

②訓練等給付費

	訓練等給付費 (円)
2020年	54,402,403
2021年	56,353,650
2022年(見込)	56,694,279

前年度実績及び評価
(2022年度最終見込)

③経営状況

	共同生活援助事業総額 (円)		
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額
2020年	71,027,959	41,231,223	11,122,074
2021年	71,521,387	43,313,253	8,931,263
2022年(見込)	72,251,578	42,014,496	12,344,170
			当期活動増減差額
			11,142,311
			8,950,464
			12,582,637

①契約者数・利用実績について

・入居者1人が、1月に疾病により死亡し契約解除となった。その補充については、現在調整中である。

②訓練等給付費について

・利用者の障害支援区分は、若干の変更はあったが、障害支援区分や障害特性に応じて世話人を配置したことにより、訓練等給付費収入を維持した。

③経営状況について

・高木浜ホームは、定員を4人から5人に増員したことで、訓練等給付費収入は16.9%増収となった。
・今後も利用者の状況に応じた手厚い支援体制を目指すと共に体制の見直しや加算を算定しながら経営の安定に繋げる。

④生活支援

・モニタリングに合わせて個別支援計画の変更を行い、計画に基づいた支援を実施した。
・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止を世話人・利用者呼びかけ、日々の健康観察、手指消毒の徹底、建物内の換気、買い物等の外出の自粛、マスクの着用等、感染症予防対策について理解を求め実施してきた。しかし、1月に「あっとホーム」箱館ハウス1号棟の新型コロナウイルス感染症の陽性者を確認した。幸いに何れも軽症であったため自宅療養を行い、10日間の療養期間を過ぎて普段の生活に戻った。
・1月にコロナワクチン4回目の接種を終えた。

・コロナ禍で思うように外出ができずストレスを抱えながら生活してきた。その為、世話人の買い物代行やテクノロジーで食事を楽しむ、公園や浜辺を散歩する等工夫をしながら新しい生活様式の中で生活を継続させている。

・加齢に伴い疾病への対応も増え、観察力と介護技術が求められている。更にスキルの高い世話人が必要となっている。

⑤環境整備(職員充足について)

・支援区分の重度化に伴い、世話人の配置基準が多くなった。今後も配置基準を勘案しながら支援をしていく。
・今年度は世話人雇用数9人でスタートし、年度中で3人採用したが、何れも勤務時間数が少ないことから、充足出来ない状態である。引き継ぎ必要人数が確保できるように努める。

⑥施設整備

- ・脱衣所に暖房器具を設置した。(羽ばたき、箱館ハウス、高木浜ホーム)
- ・羽ばたき、あっとホーム、高木浜ホームで発電機を購入し、停電時等の不測の事態に備えた。
- ・経年劣化等により、堅固な備品の買い替えが生じているが、何れも予算内で執行した。

⑦その他(施設整備等特筆すべき事項)

・今年度、たつちの家の建設予定地を掘り用地取得を計画していたが、次年度に対応をする。

1：目指す姿

それぞれの利用者が望む地域生活がいつまでも継続できるよう体制を整える

①法人本部事務局体制の充実

- 法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む。
- 法人本部との連携強化

目標 通年

②職員体制の再構築

- 法人全体の適正な人員配置を検討する。
- 法人本部との連携強化

目標 通年

③財政基盤の強化(経営数値)

- 「うちの家」の老朽化に伴い将来的に賃貸住宅から法人所有にし、定員も4名から7名に増員することで地域ニーズに応えると共に更なる経営の安定を図る。
- ※ サービス活動収益：現在より3人分増員して増収を見込む
- ・ 「うちの家」移転先建設予定地の選定から購入と建築に向けて実地設計業務を委託する。
- ：適切な人員配置
- ・ 利用者の障害支援区分に応じた職員配置を継続する。

※目標 R7年度
※目標 R6年3月 完了

目標 通年

④経営理念の明確化

- ：全職員が理念・基本方針のもと行動する。
- ・法人本部との連携強化
- ・キーパー会議等で理念の唱和し、行動指針を順守

目標 通年
目標 通年

⑤効率的・効果的な事務規律の確立

- ・サービス管理責任者の業務の整理

目標 通年

⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実

- 〈人材育成〉
- ：キーパーのスキルアップ(サポーターズ・カリッジの導入)
- ・ 現行の職員研修に加えて、専門性に特化した研修を実施
- 〈人材確保〉
- ：安定した雇用
- ・ キーパーの高齢化に伴い若い人の雇用の促進

目標 1 回/月

目標 3 人

⑦情報収集の強化

- ・ キーパー会議の定期開催

定期的に行い情報の共有化を図り、統一した支援を実施する。

目標 各ホーム4 回/年

⑧サービスの質の向上

- 〈共同生活援助事業への支援〉
- ：意思決定支援の充実を図る。
- ・ グループホームごとに余暇活動の選択
- ・ グループホームごと毎週宅配の給食材料以外に好きなメニューを食べる機会の提供
- ：利用者にあった適切なサービスの提供

目標 1 回/月
目標 4 回/月
目標 通年

当年度活動方針と
事業の進め方

<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらゆるリスクに備えた体制整備の強化(BOP・虐待防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・ 避難訓練・不審者対応訓練等を実施する。 <p>⑩老人福祉施設と障がい福祉施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤美寮との連携強化を図る。 <p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤美寮との連携強化を図る。 <p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人本部との連携強化を図る。 <p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土日の日中支援や夜間支援など充実した支援体制の強みを活かし、重度の方も地域生活ができる体制を維持する。 <p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページを活用し、生活の様子を発信する。 <p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WEBサイトを活用する。 コロナ禍で帰省も自粛しているので、保護者へ生活の様子を伝え少しでも安心してもらえよう取り組む 	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>2回/年</td> </tr> </table>	通年		目標	2回/年
	通年				
	目標	2回/年			
	<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	通年			
	通年				
<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	通年				
通年					
<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	通年				
通年					
<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	通年				
通年					
<p>目標</p> <table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> </tr> </table>	通年				
通年					

当年度活動方針と事業の進め方

令和5年度(2023年度) 事業計画

事業所 アンソニー

①契約書数及び利用実績

契約者数 (人)	利用実績		職員数 (人)	
	所要日数(日)	実利用者数(人)		
2020年	55	2,968	2020年	8
2021年	60	3,390	2021年	8
2022年(見込)	71	4,275	2022年(見込)	8

②障害福祉サービス等事業収入

	受託事業収入(公費) (円)	受託事業収入(一般) (円)
2020年	25,420,334	618,195
2021年	29,782,720	733,545
2022年(見込)	35,853,093	914,746

前年度実績及び評価
(2022年度最終見込)

③経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	25,420,334	15,975,652	3,460,964	3,493,197
2021年	29,891,390	15,709,047	8,011,387	8,138,767
2022年(見込)	36,767,839	18,518,899	11,747,961	11,704,618

①契約者数・利用実績について

- ・契約状況は、新規契約者が12人、契約解除者が1人で、12月末現在契約者数は71人であった。
- ・契約者数のうち11人程は長期間に利用は無いが、毎月の活動予定表を届けたり電話で様子を知る等関係性を保った。今後は、無理のない範囲でホリデーサロンに誘いかけて利用に結び付けていく。
- ・契約解除者1人は、死亡により解除となった。
- ・感染対策を講じながらの通所というwithコロナ社会の「新しい生活様式」にも徐々に慣れてきたことで、一人あたりの利用頻度は増えた。
- ・以前から通所していた人の高齢に伴い利用頻度が少なくなったり、疾病の悪化に伴い入院等をしたことにより、利用者の顔ぶれが変わった。

②受託事業収入について

- ・昨年に引き続き通常の開所日プラス月1～2日土曜日に関所日を設けることで、増収に繋がった。

③経営状況について

- ・食材料の高騰する中、地域の店も大切にしつつ、献立を工夫する等試行錯誤をして、利用者に楽しみのある食事提供に努めた。
- ・カーリフの高騰と半日利用の利用者が増えたこと、また、送迎範囲が広範囲になったことで、人件費やガソリン代が増額した。
- ・出来る限り無駄をなくし経費削減を図った。
- ・利用人数に応じて職員配置を考えてきたが、利用者の障害特性上当日の朝にキャンセルや通所希望が入ること等があり、難しい面があった。

④活動支援

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながらボランティアや講師の受け入れを行った。
- ・利用者のニーズに応じた活動や新たな活動を入れることで、利用人数の増加に繋がった。
- ・家族を巻き込んだ利用者間のトラブルがあったが、関係機関の協力を得ながら支援を続けた。

⑤環境整備

- ・コロナ対策として、乗車前の検温・手指消毒・車内の消毒等を実施した。夏季・冬季に施設内の大掃除を実施した。

⑥施設整備

- ・経年劣化により、照明器具等に不具合が出たため、電球を取替え高所作業の必要な箇所は、業者に依頼をして修繕を完了した。

- ・経年劣化により浴室の水道から水漏れが発生し、業者に修繕を依頼し完了した。

⑦その他(特筆すべき事項)

- ・指定管理施設の譲渡に向けて、法人として市に要望を伝え理解を求めた。
- ・指定管理期間終了後に向けて、安定した経営方針を出していく。

1: 目指す姿
・個別支援計画に基づき適切な支援を行い、地域生活が継続できるようにする

① 法人事務局体制の充実

- ・法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む
- ・法人本部の方針に準じ連携して実施する

目標 通年

② 職員体制の再構築

- ・法人全体の適正な人員配置を検討する
- ・法人本部の方針に準じ連携して実施する

目標 通年

③ 財政基盤の強化

- ・ 第4期指定管理者として責務を果たす(指定期間:令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間)
 - ・ 安定した経営管理の上、地域の福祉サービスの担い手となる
- ・ 新規利用者確保と高い稼働率の確保により受託事業収入の増収を目指す
 - ・ 新規利用者の確保(養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り起こしをし、契約人数を増やしていく)
 - ・ 毎月2回、土曜日に開所日を設け稼働率を上げる(開所日の上限を23日に近づける)
- ・ 指定管理期間終了後に向けて、安定した経営方針を出す
 - ・ 令和8年度からの事業展開を検討する。

目標 通年

目標 5 人

目標 264 日/年

目標 通年

④ 経営理念の浸透

- ・ 全職員が理念・基本方針のもと行動する
- ・ 法人本部との連携強化
- ・ 職員会議等で理念の唱和をし、日々の業務に連動する

目標 通年

目標 通年

⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立

- ・ 事業所内の業務内容の必要性と役割を見直し、業務の効率化を図る

目標 通年

⑥ トータルな人材マネジメントの整備

- 〈人材育成〉
 - ・ 職員のスキルアップ(サポーターズ・カレッジの導入)
 - ・ 知的障がい者・精神障がい者・身体障がい者への支援スキルを習得するために、定期的に研修会の実施
- ・ 権利擁護意識の強化
 - ・ 講師による内部研修と外部研修の受講を計画的に実施
 - ・ 虐待防止への取り組み
- ・ 職員の資格取得に向けての支援
 - ・ 資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)

目標 1 回/月

目標 3 回/年

目標 通年

目標 通年

⑦ 情報の収集体制の強化

- ・ 他機関との連携(高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等)
- ・ 職員自らが、地域に出向き情報の収集(地域サロンの手伝い等)

目標 通年

目標 通年

当年度活動方針と
事業の進め方

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑧サービスの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模事業所の利点を生かし、きめ細やかな声掛けや関わりをする事で、満足度の高いサービスを提供する。 ・ 保護者(家族)への相談機能を充実させ、レスパイトの役割を果たす。 ・ 季節の野菜、旬の食材を使用した給食提供をする。 ・ 利用者のニーズ把握をし、活動に取り組んでいく。 <p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)の徹底 ・ あらゆるリスクに備えた体制整備の強化(BOP(事業継続)・虐待防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・ 不測の事態に備え、避難訓練の実施(隣接する虹の会大地との協力体制の強化) ・ リニューアルの見直しと職員や利用者への周知徹底 ・ 災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し(福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施) <p>⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤美寮との情報交換の場と連携 <p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホリデーサロンの実施により、障がい者が社会に出るきっかけと居場所の提供(継続) <p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人本部と連携して魅力ある職場環境の構築を図る <p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員は、専門的な支援スキルを高め、適切な支援をすることで、高島圏域の中での担い手となる <p>⑭広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの更新 ・ 視覚障害者協会との連携 ・ 公共の場にパンフレットを置き、事業所を周知 ・ 職員は精神障がい者や身体障がい者の当事者や保護者の集まりに参加し、事業所をアピールする <p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WEB研修等の環境整備 										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	通年	目標	通年	目標	通年	目標	通年			
目標	通年										
目標	通年										
目標	通年										
目標	通年										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>2回/年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	通年	目標	通年	目標	2回/年	目標	通年	目標	通年	
目標	通年										
目標	通年										
目標	2回/年										
目標	通年										
目標	通年										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>1回/月</td></tr> </table>	目標	通年	目標	1回/月							
目標	通年										
目標	1回/月										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	通年									
目標	通年										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	通年									
目標	通年										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>1回/月</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	1回/月	目標	通年	目標	通年	目標	通年			
目標	1回/月										
目標	通年										
目標	通年										
目標	通年										
<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td></tr> </table>	目標	通年									
目標	通年										

令和5年度(2023年度) 事業計画

① 契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	利用実績		職員数 (人)	
	所要日数(日)	延利用者数(人)	2020年	2021年
2020年	29		8	
2021年	28	242	9	9
2022年(見込)	28	242	9	9
		255	2022年(見込)	5,155

② 訓練等給付費

訓練等給付費 (円)	生産活動総額 (円)	利用者工賃支払総額 (円)	平賃工賃月額 (円)
2020年	42,760,286	2,953,478	2,555,635
2021年	39,650,557	3,645,007	3,021,749
2022年(見込)	39,200,000	2,920,000	2,525,000

③ 就労支援事業(生産活動)

④ 経営状況

	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	47,109,344	29,797,511	4,302,454
2021年	44,375,116	29,104,572	2,063,283
2022年(見込)	43,444,000	28,820,000	516,502

① 契約者数・利用実績について
 ・今後利用見込みのない利用者2名の契約を終了した。
 ・新規利用者の獲得に向けて、圏域内の各相談事業所とは日頃から連携を密に取り、情報共有を行った。結果、新規利用者1名の獲得に繋がった。あわせて嶺南こころの病院、滋賀里病院、琵琶湖病院の地域連携室との連携も行ったが利用者獲得には至らなかった。

② 訓練等給付費について
 ・平日開所目標241日、土曜開所22日を目指し事業運営を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス関連の休所が3日あり、土曜開所についてもコロナによるスタッフの不足等から5日開所したことによる年間稼働日数は合計255日となった。しかしながら利用者のコロナ罹患により利用率が低下したことにより、給付費は大幅な減額となった。

③ 就労支援事業について(生産活動)
 ・受注加工部門は、新型コロナウイルス感染症の影響もなく、前年度を上回る受注状態であった。
 ・自主製品部門は、よもぎ製菓の業の先り上げが好調であった一方、生産が滞り付かず道の駅の売りの場で欠品することが何度あった。
 ・野菜の生産は玉ねぎとカボチャが不作、サツマイモがウイルス性の病気により収穫後に腐るなどのトラブルに見舞われた。しかしながらサトイモ、ジャガイモ、ダイコン、ニンジンが順調で、小売販売の他、市内4か所の給食センターに納品した。
 ・また新たな作業として8月より高島市電気事業者協会より供出を受けた優電線のリサイクル(銅線の販売)を開始した。従来の受注加工作業にない利用者の新たな作業として順調に売り上げを伸ばした。

④ 経営状況について
 ・人件費は正規職員の昇格と非常勤職員1名の雇用により増額となった。
 ・事業費は本部による車両一括管理の計画に従い、老朽化した送迎車1台(ハイエース)を廃車にした。
 ・事務費は経年劣化による各部屋入口の戸車の交換と鍵穴の調整を行った。また作業室のエアコンの修繕を行った。

⑤ 生活支援
 ・ケア会議・モニタリング会議には欠かさず出席し、情報提供を行った。また、必要に応じて事業所が主体となって会議を招集し、情報共有に努めた。

⑥ 環境・施設整備
 ・作業材料の置き場を適切に確保し、利用者の生活空間と分けることで整理整頓を行った。
 ・冷暖房の適切な使用により快適な作業空間となるように努めた。

⑦ その他(特筆すべき事項)
 ・原価価格・物価高騰対策支援金を受けて12月に館内の一斉清掃と除菌を行った。

前年度実績及び評価
 (2022年度最終見込)

1: 目指す姿

利用者の個性を活かし、楽しく働くことで、充実した毎日が送れるよう支援する。その人にとっての「居場所」となる。

— 自分らしさを再発見！ 働く喜びを見つけよう。 —

① 法人本部事務局体制の充実

： 法人本部の機能充実に向けて本部と連携して取り組む

・ 法人本部の方針に準じ、連携して実施する。

② 職員体制の再構築

： 法人本部と連携して事業量に見合う人員配置を再検証する

・ 法人本部の方針に準じ、連携して実施する。

③ 財政基盤の強化

： 新規利用者の確保と稼働率の向上による訓練給付費の増額を目指す

・ 新規利用者確保

・ 新旭養護学校・相談事業所・精神病院地域連携室との連携による市内利用者の掘り起こしをする。

目標 人

・ 稼働率の向上

・ 大津市・長浜市に運所圏域を拡大したため、各々の支援センターと連携し、利用者獲得につなげる。
・ 毎月2回、土曜開所日を設け、稼働率を向上させる。その内年4回はサロン活動をし、利用者の余暇支援と膝波園利用者との交流事業に充てる。

目標 日

④ 経営理念の明確化

： 法人本部と連携して理念・基本方針のもと、朝礼時に「たかしま会理念」を唱和する

・ 職員会議等、夕方に行う会議時に実施する。

⑤ 効率的・効果的な事務規律の確保

： 法人本部と連携して事業所内の事務の見直しとコスト意識の醸成を図る

・ 毎週月曜日の職員朝礼時、「気づきメモ」の内容を報告、職員全員で情報を共有し事故の未然防止に努める。
・ 年に一度、「気づきメモ」全体を通して評価する機会を設ける。

通年

⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実

＜人材育成＞

： 職員のスキルアップ(三障がいに対する知識の習得)

・ 精神障がい研修を受講する。

目標 人

： 職員のスキルアップ(魅力的な情報発信とネットショップ開設の準備)

・ SNSによる集客と魅力ある製品ホームページにむけたSNS講座を受講する。

目標 人

： 職員のスキルアップ(利用者支援に対する知識の習得)

・ スキルアップ研修 自閉症勉強会(発達障害者支援センターによるコンサル)に参加する。
・ 就労支援に関する研修(外部講師による研修・動画視聴研修・視察研修)を受講する。

目標 回

： 職員の資格取得に向けての支援

・ 虐待防止研修 職員会議にて、障がい者虐待に関する知識向上や虐待防止の取り組みについて考える。
・ 資格取得支援 前年度に引き継ぎ、大型特殊免許取得に向けての支援を行う。

目標 回

： 楽しく働ける職場づくり

・ 休暇時間の確保や福利厚生の実践等、安心して働ける職場づくりを行う。

目標 人

⑦ 情報収集体制の強化

： 多職種連携を強化する

・ 市・県・相談事業所・働き暮らし応援センター・特別支援学校・高島市民病院・琵琶湖病院・滋賀里病院
・ 嶺南こころの病院・今津駅前メンタルクリニック・各グループホーム・B型事業所等との連携を強化する。
・ インスタグラム、フェイスブック等、SNSにより全国の作業所と交流し、事業所のPRや情報交換を行う。

魅力的な情報発信について学ぶ。

： SNSの有効活用(公式アカウントの取得)

・ 魅力的な情報発信について学ぶ。

魅力的な情報発信について学ぶ。

⑧サービスの質の向上

＜総合的な支援＞

- ：個別支援計画の作成
- ：虐待防止への取り組み
- ：第三者委員会等への情報提供
- ：利用者の長期欠席者への対応の充実
- ：就労者の育成
- ：体験実習の受け入れ

：各種行事の充実

- ・利用者へのニーズ調査を徹底し、自立支援につなげる計画を作成する。
- ・利用者への聞き取りを経て当事業所に合った課題を抽出し、職員全員で行なう虐待防止会議にて検討する。
- ・苦情案件はもちろん業務遂行上の課題を提出しサービスの向上に努める。
- ・定期的な家庭訪問を実施する。
- ・事業所から就労者を社会に送り出すため、関係機関との情報交換を行う。
- ・体験実習を積極的に受け入れ、契約者の増加に努める。

目標 2 回
目標 3 人

＜工賃向上のための支援＞

- ：職業指導員会議の充実
- ：自主製品の販売店舗の拡大
- ：自主製品のネットショップ販売
- ：よもぎ湯の糸の増産体制の確立
- ：よもぎ湯の糸原料の安定確保

当年度活動方針と事業の進め方

- ・週1回開催し、職員や利用者の配置の調整、売上の進捗確認と内職の受注調整を行う。
- ・既存の市内道の駅以外に販売先を開拓をする。びわ湖まんがく市場への積極的な参入を行う。
- ・ショップ運営と戦略の検討を行う。(取り扱い商品の説明文のチェック・開張市場の動向調査、顧客獲得戦略等)
- ・ボランティア・職員OBの協力を得た増産体制を確立する。ボランティア募集を広く行う。
- ・製造工程の見直しにより、製造数アップを図る。
- ・従来作業に加え、シルバー人材センター等にも委託し、原料確保の安定化を図る。
- ・よもぎの自家栽培に向け、耕作放棄地の選定・借り上げよもぎ種子の入手・栽培を進める。

目標 1 店
製造数 250 袋/月

：新商品の開発

：芸術作品等の商品化の検討

：野菜のブランド化の推進

(障がい者十耕作放棄地十地元高齢者＝事業所の独自ブランド)
(農福連携+付加価値＝広い販路と高単価)
..... ストーリー作り

- ・作業工程の一部に、重度障がい者が関わられる試作品の検討をする。
(例:木工製品、お茶・びん茶等配合よもぎ入浴剤、風呂敷付き入浴剤セット、メタセコイヤ農薬土等地元観光地とのコラボ商品開発)
(令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により参集が難しく、未実施)
- ・地域のアーティストや大学と連携して開張プロジェクトチームを立ち上げ方向性を摸索する。
- ・5品種の無農薬への転換準備と栽培マニュアルの作成をする。(玉ねぎ・じゃがいも・さつまいも・ニンジン・ダイコン)
- ・ブランド化に向けた取り組みをする。(ロゴマーク・ラベル、包装の使用、独自ブランドの名称・ストーリー作り)
- ・地元農家との交流を行う。(高齢農家の作物の販路、働き手不足等の情報収集)
- ・農産の本格化に向け、検討の場を持ち、販売予定量に応じ、必要があれば食品保管庫設置の準備を進める。

目標 6 回

⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備

：防災マニュアル・感染症予防マニュアルの周知・見直し

：消火訓練・避難訓練の実施

：バリアフリー設備等の老朽化対策

- ・各マニュアルを職員や利用者へ周知徹底する。
- ・消火訓練がマンネリ化しないよう工夫しながら実施する。土砂災害を想定した訓練も行う。
- ・定期的な館内の見回りによる点検と修繕を実施する

目標 2 回
目標 2 回

<p>⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす</p> <p>：障がい者との連携強化</p> <p>・土曜開所日のサロンや農作業等で交流をする。</p> <p>目標 <input type="text" value="2"/> 回</p>	<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>：社会貢献事業「行こカー」へ協力</p> <p>：地域の公的な活動への参加</p> <p>・毎月第三金曜日に職員1名が出役する。</p> <p>・要請に応じ、地域の研修活動、学校の福祉教育に講師として出役する。</p> <p>・足湯体験等イベントや健康教室への出前講座を行う。</p> <p>地域のイベントにボランティアとして参加する。</p> <p>目標 <input type="text" value="1"/> 回 / 月</p> <p>目標 <input type="text" value="2"/> 回</p> <p>目標 <input type="text" value="2"/> 回</p>	<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>：法人本部と連携して魅力ある職場環境の構築を図る</p> <p>・楽しく働ける職場づくり</p> <p>・休憩時間の確保や福利厚生充実等、安心して働ける職場づくりを行う。(再掲)</p>	<p>⑬法人のブランド化</p> <p>：全自主製品にロゴマークシール貼り付け</p> <p>・たがしま会で採用されたロゴマークを使用する。</p>	<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <p>：HPや広報誌の発行を充実</p> <p>：ポランテニア団体との共同作業の場の構築</p> <p>：SNSの有効活用</p> <p>・法人本部と連携しHPや広報誌の充実を図る。</p> <p>・民生・児童委員等に呼びかけ利用者や地域住民との共同作業の場を設け交流を深める。</p> <p>・インスタグラム、フェイスブック等、SNSにより全国の作業所と交流し、事業所のPRや情報交換を行う。(再掲)</p> <p>目標 <input type="text" value="4"/> 回</p>	<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>：新型コロナウイルスへの対応として外部研修の受講体制を整える</p> <p>：自主製品のネットショップ販売(再掲)</p> <p>：SNSの有効活用(再々掲)</p> <p>・リモート研修を受講できる環境を有効利用し、外部研修を積極的に受講する。</p> <p>・ショップ運営と戦略の検討を行う。(取り扱い商品の説明文のチェック、開設市場の動向調査、顧客獲得戦略等)(再掲)</p> <p>・インスタグラム、フェイスブック等、SNSにより全国の作業所と交流し、事業所のPRや情報交換を行う。(再々掲)</p>
---	---	--	--	---	--

当年度活動方針と事業の進め方

令和5年度(2023年度) 事業計画

事業所 デイサービスセンター 藤

1: 目指す姿

・利用者の笑顔と家族の安心を支え、地域生活が継続できるようにする

① 法人事務局体制の充実

- 法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む。
- 法人本部の方針に準じ連携して実施する。

目標 通年

② 職員体制の再構築

- 法人全体の適正な人員配置を検討する。
- 法人本部の方針に準じ連携して実施する。

目標 通年

③ 財政基盤の強化

- 事業所の概要を地域に周知し、信頼を得る。
- 関係機関に出向き広報活動を行う。

目標 通年

：新規利用者の確保と高い稼働率により、受託事業収入の増額を目指す。

- 新規利用者の確保(養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り起こしをし、契約人数を増やしていく)
- 徐々に土曜日に開所日を設け稼働率を上げる(開所日の上限を23日に近づける)

目標	5	人
目標	250	日/年

④ 経営理念の浸透

- 全職員が理念・基本方針のもと行動する。
- 法人本部との連携強化
- 職員会議等で理念の唱和をし、日々の業務に活かす。

目標	通年
目標	通年

⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立

- 事業所内の業務内容の必要性と役割を把握し、業務の効率化に努める。

目標 通年

⑥ トータルな人材マネジメントの整備

(人材育成)

- 職員のスキルアップ(サポーターズ・カリッジの導入)
- 重度心身障がい者・知的障がい者・精神障がい者・身体障がい者への支援スキルを習得するために、定期的に研修会の実施

目標 1 回/月

：権利擁護意識の強化

- 講師による内部研修と外部研修の受講を計画的に実施
- 事業所内での虐待防止への取り組みの確立と職員への周知

目標	3	回/年
目標	8月	完成

：職員の資格取得に向けての支援

- 資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)

目標 通年

⑦ 情報の収集体制の強化

- 高島市自立支援協議会や知的ハンディを持つ人の福祉協会等に参画し、関係機関との関係を構築する。
- 他機関との連携(高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等)

目標	7月加入
目標	通年

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑧サービスの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模事業所の利点を生かし、きめ細やかな声掛けや関わりをする事で、満足度の高いサービスを提供する。 保護者(家族)への相談機能を充実させ、レスパイトの役割を果たす。 利用者や家族等の状況に応じ個別支援を強化する。 利用者のニーズ把握をし、活動に取り組んでいく。 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年		目標	通年		目標	通年		目標	通年				
目標	通年															
目標	通年															
目標	通年															
目標	通年															
<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)を徹底する。 あらゆるリスクに備えた体制整備の強化(BOP・虐待防止委員会・ヒヤリ/ハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) 不測の事態に備え、避難訓練を実施する。 マニュアルの作成と職員や利用者への周知徹底をする。 災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し(福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施) 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>目標</td><td>2</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>目標</td><td>8</td><td>月完成</td></tr> <tr><td>目標</td><td>1</td><td>回/年</td></tr> </table>	目標	通年		目標	通年		目標	2	回/年	目標	8	月完成	目標	1	回/年
目標	通年															
目標	通年															
目標	2	回/年														
目標	8	月完成														
目標	1	回/年														
<p>⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤美寮との情報交換の機会をすることで連携を強化する。 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年													
目標	通年															
<p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> 藤美寮と連携により実施する。 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年													
目標	通年															
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人本部と連携して魅力ある職場環境の構築を図る。 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年													
目標	通年															
<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員は、専門的な支援スキルを高め、適切な支援をすることで、高島圏域の中での担い手となる 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年													
目標	通年															
<p>⑭広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの立ち上げと更新 公共の場にパンフレットを置き、事業所を周知 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>1</td><td>回/月</td></tr> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	1	回/月	目標	通年										
目標	1	回/月														
目標	通年															
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> WEB研修等の環境整備 	<table border="1"> <tr><td>目標</td><td>通年</td><td></td></tr> </table>	目標	通年													
目標	通年															

当年度活動方針と事業の進め方